



歌津町長 牧野 駿

歌津町は、宮城県の北東部、本吉郡のほぼ中央部に位置し、北西に霊峰田東山を配し、東面は太平洋に臨み、リアス式海岸一体と田東山山頂部は、南三陸金華山国定公園の一角を形成しています。遙か太古の昔から、海、山、大地の恩恵を受け継いで、有史以来一つの村落として合併も分離もされることなく開拓され今に至っております。

明治二十二年の町村制のもとに人口二九〇四名、五〇四世帯の農、漁、山村として発足以来百十六年を迎え、更に昭和三十四年四月、皇太子殿下御成婚時に町制を施行し四十六年となりました。先人の英知とたゆまぬ努力により、幾多の困難と試練を乗り越えて豊かな風土、多様な文化を育みながら着実に発展し住みよい町を築いてまいりました。そのご労苦を思うとき、感激ひとしおの思いが胸に迫ります。

平成の時代に入り、景気の長期低迷、少子高齢化の進展、更には行財政の効率化と地方分権を目指した市町村合併気運の厳しい現実を痛感し、将来ともに持続的な住民の幸せを思い、行政面、生活面、産業面でのつながりの深い志津川町と更なる福祉の向上や行政の効率的運営を目指して、来る十月一日に合併し、「南三陸町」が誕生します。合併の協議が始まって以来、議員各位をはじめ町民皆様方のご理解とご協力により今日を迎えることが出来ましたことを心より感謝申し上げます。

このたびの合併により歌津町としての幕を閉じることになりますが、「歌津」が無くなるわけではありません。今後も地域の皆様のお力を得て、安全で安心して暮らせる町づくりを更に進めていくことには変わりはありません。

新町の将来像は、「豊かな自然、集う人々、やすらげるまち、そして、にぎわい」とし、「自然との調和の中で人々が交わり、魅力を創り出すまち 南三陸町」をサブタイトルに、新町建設計画の具現化に努めるものと確信しております。

この記念誌は、閉町をテーマに歌津町の歩みを、次代を担う人々に伝え残すために、町の様子をより広くご紹介いたしました。懐かしい写真や手記等協力いただきました皆様に感謝を申し上げます。

最後になりましたが、これまで地域発展に尽力されてこられた方々、歌津町民の皆様方に対し改めて感謝申し上げます。皆様方のこれからの活躍とご健勝、さらに新生「南三陸町」の発展をお祈り申し上げます。閉町にあたってのごあいさつと致します。



歌津町議会議長 阿部 建

歌津町は、明治二十二年四月市町村制が施行され歌津村が誕生、以来一十六年間にわたり明治・昭和の大合併が推し進められながらも、弛まぬ努力と研鑽に励み自立の道を選択し、数々の歴史と伝統を築いて今日に至りました。

しかしながら、平成に入り、国は地方分権社会の推進、少子高齢化社会への対応、国・地方の厳しい財政状況への対応、さらには、多様化・高度化する住民ニーズへの対応、生活圏の広域化への対応を市町村合併に求める政策を打ち出しました。このことにより、全国的に合併気運が高まり、平成十八年三月末には現在の三、二三二市町村から一、八二二市町村に再編される見込みとなりました。我が歌津町も志津川町との合併が平成十七年十月一日に決まり、新たに南三陸町が誕生することとなり、「歌津」一十六年の歴史に幕を閉じることになりました。

歌津町を閉じることには限らない寂しさ、遣る瀬無い思いがいたしますが、これも偏に町民福祉の向上と将来思考の見地等を考えればこそその決断であります。

どうかこれまで歌津町で培われてきた生活文化・伝統を生かしながら、新町の町づくりに対して今後ともこれまで同様に町民皆様方のご協力を賜りたいと存じます。

結びに、町民皆様方の益々のご健勝・ご多幸と「南三陸町」の均衡あるご発展を心からご祈念申し上げます。閉町にあたっての御挨拶といたします。